

・以下の集計値／グラフは、4月19日に実施した調査の結果を集計した値である。  
 ※ただし、4月19日に調査を実施していない学校については、4月20日以降5月20日までに実施した調査の結果を集計した値とする。

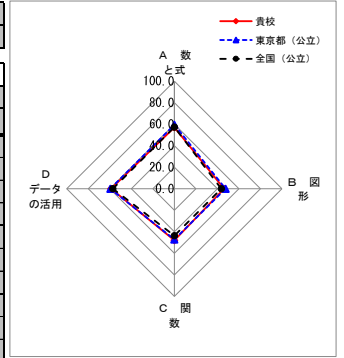
**集計結果**

対象生徒数		江戸川区立小岩第一中学校	東京都（公立）	全国（公立）
		119	70,865	891,913

分類	区分	対象問題数（問）	平均正答率（%）		
			貴校	東京都（公立）	全国（公立）
全体			53	54	51.4
学習指導要領の領域	A 数と式	5	57.1	59.5	57.4
	B 図形	3	46.2	47.6	43.6
	C 関数	3	47.9	47.1	43.6
	D データの活用	3	58.8	59.5	57.1
評価の観点	知識・技能	9	59.8	62.4	59.9
	思考・判断・表現	5	41.3	39.7	36.2
	主体的に学習に取り組む態度	0			
問題形式	選択式	4	52.9	55.2	52.6
	短答式	5	65.2	68.2	65.7
	記述式	5	41.3	39.7	36.2

**<学習指導要領の領域の平均正答率の状況>**



※「学習指導要領の領域」と「評価の観点」については、一つの問題が複数の区分に該当する場合があります。それぞれの分類について各区分の問題数を合計した数は、実際の問題数とは一致しない場合があります。

**問題別集計結果**

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域				評価の観点			問題形式			正答率（%）			無解答率（%）		
			A 数と式	B 図形	C 関数	D データの活用	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式	記述式	貴校	東京都（公立）	全国（公立）	貴校	東京都（公立）	全国（公立）
1	42を素因数分解する	自然数を素数の積で表すことができる	1(1) ア(イ)				○			○	26.9	47.6	52.2	19.3	13.2	11.5		
2	連立二元一次方程式 $\begin{cases} 2x + y = 1 \\ y = x + 4 \end{cases}$ を解く	簡単な連立二元一次方程式を解くことができる	2(2) ア(ウ)				○			○	80.7	78.6	74.5	5.0	5.1	6.1		
3	ある予想がいつでも成り立つかどうかを示すことについて、正しく述べたものを選ぶ	反例の意味を理解している			2(2) ア(イ)		○		○		45.4	48.1	44.9	0.8	0.5	0.4		
4	変化の割合が2である一次関数の関係を表した表を選ぶ	一次関数の変化の割合の意味を理解している			2(1) ア(ア)		○		○		42.0	41.0	37.9	0.0	0.5	0.4		
5	容器のふたを投げたときに下向きになる確率を選ぶ	多数の観察や多数回の試行によって得られる確率の意味を理解している			1(2) ア(ア)		○		○		87.4	85.4	83.3	0.0	0.4	0.3		
6(1)	同じ偶数の和である $2n + 2n = 4n$ について、 $n$ が9のときのような計算を表しているかを書く	問題場面における考察の対象を明確に捉えることができる	2(1) ア(イ)				○			○	82.4	78.2	73.8	3.4	5.2	6.0		
6(2)	差が4である2つの偶数の和が、4の倍数になることの説明を完成する	目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができる	2(1) イ(イ)				○			○	53.8	52.5	48.7	16.8	17.0	20.0		
6(3)	ある偶数との和が4の倍数になる数について、予想した事柄を表現する	結論が成り立つための前提を考え、新たな事柄を見だし、説明することができる	2(1) イ(イ)				○			○	42.0	40.7	37.6	21.8	24.2	26.2		
7(1)	コマ回し大会で使用するコマをヒストグラムの特徴を基に選び、選んだ理由を説明する	データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる			1(1) イ(ア)		○			○	52.1	47.0	44.0	0.8	1.5	1.4		
7(2)	箱ひげ図の箱が示す区間に含まれているデータの個数と散らばりの程度について、正しく述べたものを選ぶ	箱ひげ図から分布の特徴を読み取ることができる			2(1) ア(ア)		○			○	37.0	46.2	44.1	0.8	0.9	0.7		
8(1)	与えられたグラフにおいて、点Eの座標を書く	与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取ることができる			1(1) ア(ウ) イ(イ)		○			○	57.1	58.5	54.6	3.4	6.4	7.2		
8(2)	目標の300kgを達成するまでの日数を求める方法を説明する	事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる			1(1) イ(イ)		○			○	44.5	41.8	38.4	16.8	21.2	24.4		
9(1)	証明で用いられている三角形の合同条件を書く	証明の根拠として用いられている三角形の合同条件を理解している			2(2) ア(ア)		○			○	79.0	78.1	73.2	5.9	6.5	7.5		
9(2)	$\angle ABE$ と $\angle CBF$ の和が $30^\circ$ になる理由を示し、 $\angle EBF$ の大きさがいつでも $60^\circ$ になることの説明を完成する	筋道を立てて考え、事柄が成り立つ理由を説明することができる			2(2) ア(イ)		○			○	14.3	16.7	12.5	28.6	36.3	38.5		